



業種区分 医療、福祉

従業員数 14名

診断対象施設の用途

通所介護

年間エネルギー使用状況

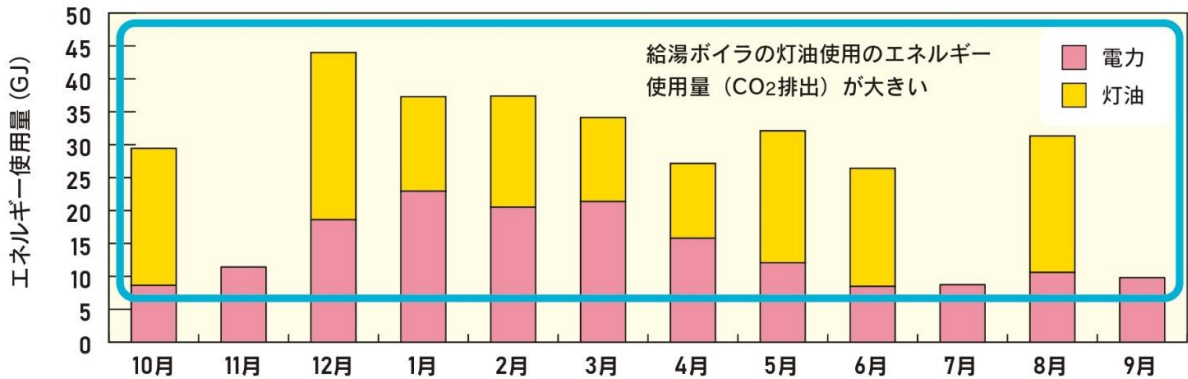
8.49kL/年 (原油換算)

※脱炭素診断時に提出のあった資料に基づく

省エネ施策提案内容 一覧

提案	提案内容	エネルギー種別	エネルギー削減効果		CO ₂ 削減量 (t-CO ₂ /年)
			削減金額(千円/年)	原油換算(kL/年)	
①	給湯ボイラの更新	灯油	66	0.60	1.57
②	費用・投資が伴う提案 1階照明のLED化	電力	41	0.26	0.48
③	駐車場、風除室照明のLED化	電力	9	0.06	0.11
合計			116	0.92	2.16

月別電力・燃料合計使用量推移



提案①の詳細

■現状

- 給湯ボイラは設置後18年が経過し老朽化が進んでいるため灯油消費量が多い

■省エネ施策

- 給湯ボイラを省エネ性能の高い高効率機器に更新する
熱効率：現状給湯ボイラ82.1% (灯油) →
更新給湯ボイラ96.0% (灯油)

■CO₂削減効果

- 給湯ボイラの更新 → 1.57t-CO₂/年削減

合計
1.57
t-CO₂/年削減



業種区分 医療、福祉 従業員数 15名

診断対象施設の用途 医療施設

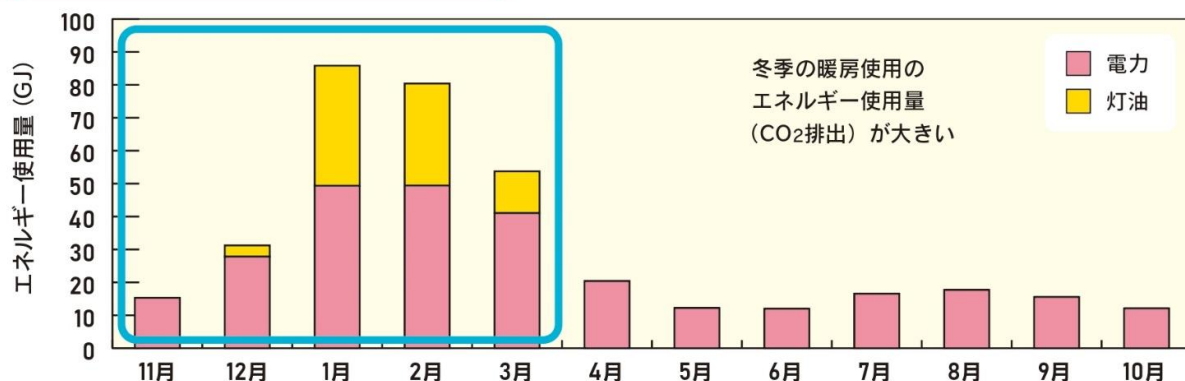
年間エネルギー使用状況 8.32kL/年 (原油換算)

※脱炭素診断時に提出のあった資料に基づく

省エネ施策提案内容 一覧

提案	提案内容	エネルギー種別	エネルギー削減効果		CO ₂ 削減量 (t-CO ₂ /年)	
			削減金額(千円/年)	原油換算(kL/年)		
①	運用管理等の改善 待合室にサーキュレーターの設置	電力	6.3	0.04	0.08	
②	エアコンの更新(休憩室)	電力	3.1	0.02	0.04	
③	エアコンの更新(診察室1)	電力	2.2	0.02	0.03	
④	費用・投資 が伴う提案	エアコンの更新(診察室2)	電力	33.4	0.24	0.44
⑤		融雪ボイラの更新	灯油	1.5	0.02	0.04
⑥		給湯ボイラの更新	灯油	2.4	0.02	0.06
⑦		照明のLED化	電力	87.9	0.62	1.15
合計			136.8	0.98	1.84	

月別電力・燃料合計使用量推移



提案①の詳細

■現状

- ・待合室の暖房は電気エアコンを使用している
- ・天井が高いため熱気が上部にたまり、床周辺と比べて約5℃の温度差が生じている

■省エネ施策

- ・サーキュレーターを設置し、天井と床周辺の温度差を縮める

■CO₂削減効果

- ・サーキュレーターの設置 → 0.08t-CO₂/年削減

合計
0.08
t-CO₂/年削減



業種区分 医療、福祉 従業員数 70名

診断対象施設の用途 福祉施設

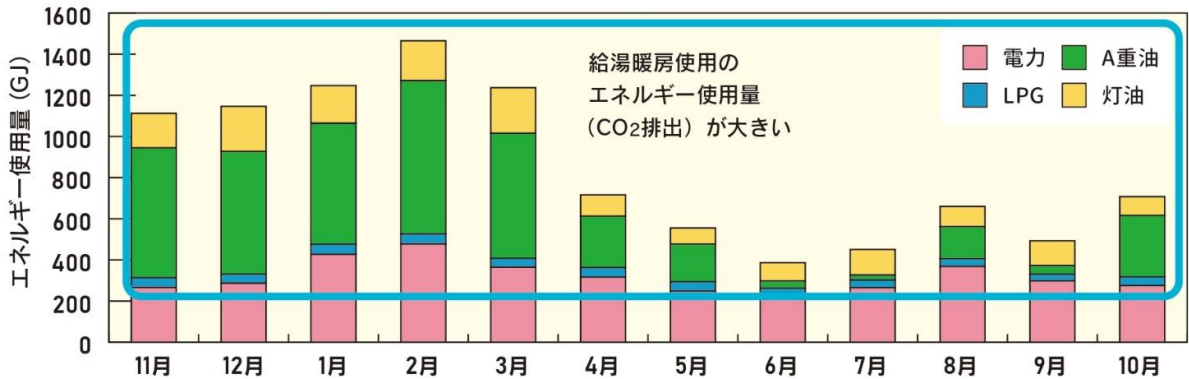
年間エネルギー使用状況 262.59kL/年（原油換算）

※脱炭素診断時に提出のあった資料に基づく

省エネ施策提案内容 一覧

提案	提案内容	エネルギー種別	エネルギー削減効果		CO ₂ 削減量 (t-CO ₂ /年)	
			削減金額(千円/年)	原油換算(kL/年)		
①	ボイラの燃焼空気比調整	A重油	206	2.15	5.76	
②	運用管理等の改善	暖房を電気エアコン優先で使用	A重油電力差し引き	230	2.51	10.11
③		トイレ凍結防止ヒータの設定温度緩和	電力	155	1.57	2.90
④		厨房の冷凍冷蔵庫・製氷機のフィルター清掃	電力	5	0.05	0.10
⑤	費用・投資が伴う提案	デマンド監視装置の導入	電力	169	—	—
⑥		蒸気・給湯配管系の保温	重油	175	1.82	4.89
合計			940	8.10	23.76	

月別電力・燃料合計使用量推移



提案①の詳細

■現状

- ・給湯及び暖房用のボイラが合計4台使用されている
- ・ボイラが燃焼時の空気量が多く、熱損失が増加していた

■省エネ施策

- ・燃焼時の供給空気量を適正にする

■CO₂削減効果

- ・ボイラの燃焼空気比調整 → 5.76t-CO₂/年削減

合計
5.76
t-CO₂/年削減



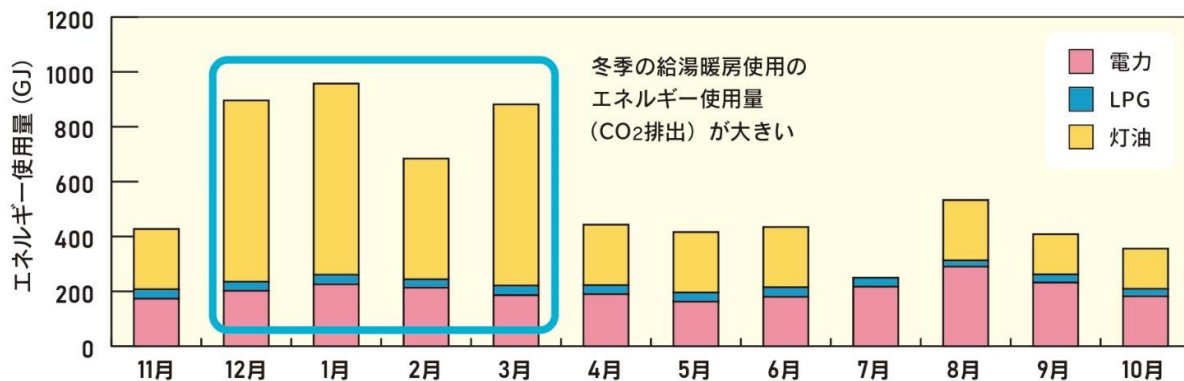
業種区分 医療、福祉 従業員数 59名
 診断対象施設の用途 福祉施設
 年間エネルギー使用状況 172.50kL/年 (原油換算)

※脱炭素診断時に提出のあった資料に基づく

省エネ施策提案内容 一覧

提案	提案内容	エネルギー種別	エネルギー削減効果		CO ₂ 削減量 (t-CO ₂ /年)
			削減金額(千円/年)	原油換算(kL/年)	
①	ボイラの燃焼空気比調整	灯油	282	2.49	6.53
②	運用管理等の改善	灯油	861	7.57	19.92
③	トイレ凍結防止ヒータの設定温度緩和	電力	54	0.51	0.94
④	浄化槽曝気ブロワのタイマー制御	電力	180	1.69	3.13
⑤	デマンド監視装置の導入	電力	169	—	—
⑥	ポンプのインバータ制御	電力	242	2.27	4.20
⑦	温水配管及び給湯系の保温	灯油	91	0.80	2.10
⑧	変圧器の更新	電力	85	0.80	1.47
⑨	照明のLED化	電力	126	1.18	2.19
合計			2,090	17.31	40.48

月別電力・燃料合計使用量推移



提案 ② の詳細

■現状

- ・施設内の冬期の暖房は、温水循環によるセントラル方式と床暖房が併用されている
- ・ボイラの設定温度は80℃と高く、床暖房は共用部などの表面温度は40℃程度ある

■省エネ施策

- ・ボイラの設定温度を75～70℃に下げ、床暖房も一般的な表面温度の30～32℃に下げる

■CO₂削減効果

- ・ボイラ暖房及び床暖の設定温度低減 → 19.92t-CO₂/年削減

合計
19.92
 t-CO₂/年削減